

校閲を経たり。世界文學と稱するの故を以て、其材料は東西廣く之を探りたり。讀んで面白く且つ、三篇までに於ては、文字の形式、内容の材料、共に最も注意したる跡見えたり。新年の年玉などには以て來いの品といふべし。(定價一冊拾貳錢 發行所 神田裏神保町九、富山房)

▲豊國新聞 第四十四號

滿三年に達したといふ祝ひで、本號は紙面を大に擴張した。が、廣告と祝詞、大に紙面を埋めて居る。短篇小説、名家の傳などあり、殊に劇に關する記事が最も多い。料理法などは家庭向として宜しい様に思ふ(月三回 發行所 京都府萬野郡朱雀野村王生 豊國新聞社)

第廿七常會

會報

明治三十五年十二月六日午後一時三十分女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會せり出席者會員四十四名同伴者數名にして會員横山榮治君は、フレーベル氏と新教育學に付けて、現今新教育學の骨子をなれることを綴々演述せられたり、次ぎて東基吉君は、幼稚園に於て六ヶ數事を教ふることの、フレーベル氏の主意に反するのみならず、抑々又現今教育學の理法に背けるものなることを

麵町區下六番町四八

赤坂區溜池五番地

轉居之部

深川區八名川町四〇荒木伊三郎方へ

南葛飾郡葛西小學校へ

三重縣四日市堅町井島方中村方へ

大分縣大分郡大分町へ

橫濱市宮崎町三五松澤方へ

芝區新堀一七へ

板木縣安蘇郡萬生村

會費領收

自十一月二十六日至十二月二十六日

一金一圓二十錢

自三十五年四月至三十六年四月

一金二十錢

自三十五年十一月至三十六年十一月

一金一圓

自三十五年七月至三十六年七月

月月

田中好
猪俣みさを

前野さき

片桐くら

平野まち

山田きみ

岩瓦いみ

千秋貞

神林千

石川いし

岩崎かの

鳥居鋳三郎

樺本常

川口雪枝

に付きての話あり、野口ゆか子君は、華族女學校幼稚園に於ける保育上唱歌を幼兒に歌はしむるに付きての有益なる實驗談あり、後會員相互の自由談話を以て四時半閉會したり

三

1

富田八千代 簡井はる 宮崎もと 平野みよ
高木なみ 安東てい 村井あい 木村さらゑ
相川みれ 岩田ゆき 奈良あい 下田たつ
益田一枝 大石橋常世 藤岡さき
大森國儀 餓ふみ 岩下田尾崎万義

岡澤やへ
外山愛茂
村川
柴田かつ
山田みつ
大島小春
高山ふみ
雨森
林
山越忍空
關
横田けい
田中好く
丸山千代
岡田かく
柴崎けい
山口きよ
吉川さい
清水あい

號壹第卷參第もご子さ人號

西村さいた
永田よし
青木せい
大久保雪枝
小向きみ
福尾きく
服部たき
波佐谷みち
安藤だみ
岩村ゑつ
山田きみ
矢野ふさエ
小杉郷
一色さよ
千葉秀明
小岩ゑい
千葉秀明
大橋いぬ

稻葉かね
内田かれ
後藤りん
成瀬きよ
吉田しう
後藤りん
大竹みさほ
伊藤いっけ
櫻井光華
有川久江
堤てつ
瀧澤よしう
片桐くら
山中下枝
神通せき
岡本たか
岡田みづ
岡田ふみ